

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

最近、久々に北アルプス市町村会館で開催された会議に出席する為にJR大系線を利用する機会があった。車内には大勢の外国から

のお客様。乗車するとほぼ全員がスマートフォン(スマホ)の操作を始める。スマホは「賢い電話」からスマホと呼ばれるようになった「高機能・パソコンの機能つき携帯電話」だ。車窓から仁科三湖が眺望できるようになると一斉に動画撮影が始まる。地域住民には見慣れた風景も、雪景色の湖は、彼らには魅力的なのだと感じる。

会議時間まで間があったので、久し振りに「昭和軒」で昼食。評判のソースがけかつ丼を注文。昭和2年創業の素朴な洋食屋の雰

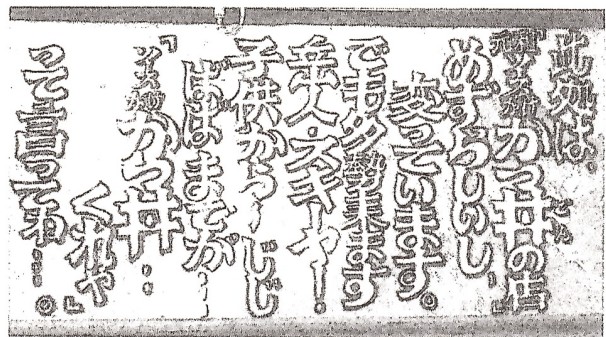
囲気が懐かしかった。店内を見回すと「当店では食育の一環として酒・ビール等は提供しません。タバコは吸えません。添加物や砂糖がタップリ入った清涼飲料水もございません。タッフでの営業で、会計専従者は居ません。グループ毎の支払や、混雑時での精算猶予のお願い。レシートはお出ししません。必要の方は領収書を発行」。これは、昔当たり前

もせず、お客様の予算に合わせた評判店。毎月第4金曜日にカラオケ大会が開催され、恒例のグランドチャンピオン大会出場を目指して県内外のカラオケファンの憧れの店でも

地域の魅力を発見する 身近な旅気分を楽しもう

ん。…食事には必要ありません、買つつもりです」の掲示。この営業方針が、有名な食屋の地位を確固たるものになっているのだから。食事が終わって精算を見回すと、「誠時に身勝手ですが最小ス

だ。…食事には必要ありません、買つつもりです」の掲示。この営業方針が、有名な食屋の地位を確固たるものになっているのだから。食事が終わって精算を見回すと、「誠時に身勝手ですが最小ス



店舗内の看板、読むだけで、料理へのこだわりが楽しく伝わってくる
……
る機会は限られているが、地域の中でも地域を知る事で「旅気分」を味わう場面は多いはずだ。その繰り返しが、地元の魅力を高め、地域文化を育てるに違いない。身近な旅気分を日常にしてはどうだろうか。
(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)